

プログラム

コウノトリの生態飼育の現状報告

県安全環境部自然環境課 課長 野坂雄二氏



昨年12月10日に、コウノトリのペアを兵庫県立コウノトリの郷公園より借り受け、越前市白山地区で飼育をスタートさせて5ヶ月が過ぎました。コウノトリを自然再生のシンボルとした生物多様性の回復・希少野生生物の保全再生活動の継続・未来につながる環境学習、自然体験学習への取り組みの継続・里地、里山の歴史と文化の継承等を考慮し日々活動しております。鳥など生物の住める環境が我々にとって大事なことで、鳥が住めない環境は人間にとっても害になります。生物と共に生きる自然環境を守る事は本当に大事なことだと思います。本日は、獣医師木村さんからコウノトリの生態と飼育の現状報告をさせて頂きます。

県安全環境部自然環境課 獣医師 木村美貴氏

現在、越前市白山地区で飼育しているコウノトリですが、15才のオスのふっくんと、14才のメスのさっちゃんで、偶然にも誕生日が同じです。どちらも多摩動物公園で生まれ、2003年にコウノトリの郷公園に移送されてきました。カップルになったのは2004年で、夫婦になってから、かれこれ8年になります。田んぼの中にケージを建てていますが、まわりをお堀で囲んで動物と不審人物の侵入を防いでいます。フェンスには1周ビリッとくる電線が張ってあるので、フェンスをよじ登るアライグマを防げるようになっています。

コウノトリは肉食性の鳥で、野生では魚やカエル、昆虫も食べているようです。ここではコウノトリの郷公園に倣って、海で獲れた小さめのアジと、ドジョウを与えています。体重5kg程度で一日500gの餌を食べるのですが、体重60kgの人間に換算すると6kgのお米、ごはん茶碗50杯分も食べることになるので、非常に大食漢だと言えます。

コウノトリは年に1回だけ繁殖します。1月末から2月にかけて夫婦が共同で巣作りをし、2月から3月にかけて卵が4個から5個生まれます。交尾を始めるのは早く12月5日からと言われています。3月に卵が生まれたら温め、鶏は21日ですが、コウノトリは31日で孵化します。4月にはヒナが生まれ、生後63日程度経った6月に巣立ちしますが、大体2ヶ月間は親について歩くようです。



コウノトリは交尾から産卵まで平均32日ですが、実は毎日交尾が継続したから3~4週間後、1日の交尾回数が増えたとして7~10日後に産卵となるので、1回成功したからといって卵が生まれるわけではなく、しかも繁殖期終了の目安となる羽根の見え変わりが徐々に進んできているため、今年の繁殖は期待が薄いのではないかと思います。

ケージ周辺の水田では、減農薬、無農薬のお米作りをしています。その他にも、魚が遡上できる堰上水路、魚が水路から田んぼに入って来る水田魚道、オタマジャクシがカエルになる時期に田んぼから水を抜いても無事に生き延びれる逃げ場である退避溝、コウノトリ飛来のシンボルである人工巣塔、作物を植えていても水を溜めている休耕田など、コウノトリが生息するための土台である生き物を育むための取り組みを行っています。

もともと郷公園にいた頃は、一般公開されていなかったふっくんさっちゃんが安心して生活できるよう、一般の方には100m離れて観察してくださるようお願いしています。一番よく見えるポイントには地元の方が双眼鏡を提供してくださっています。

先ほどご説明した農薬を減らす取り組みや、冬の間も生き物を育む「ふゆみずたんぼ」を実施されている農家の方々、コウノトリのペアが来てから毎日ケージ周囲をパトロールしてくださっている「見守り隊」ボランティアの皆様に支えられて、コウノトリプロジェクトは進行しています。

コウノトリのエサであるアジも地元の漁協さんからお手頃なお値段で提供してもらっています。

もし野外で暮らしているコウノトリが飛んできたら、野鳥である彼らをビックリさせないよう、150m以上離れて観察してください。

さらに、ヒトに慣れて近づきすぎることによる交通事故を防ぐため、餌を与えないようにお願いします。

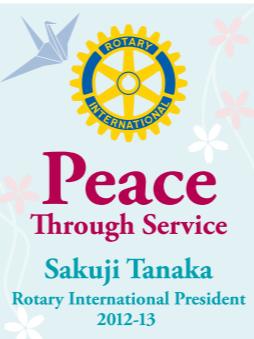


ニコニコ箱 18,000円

○佐々木会長 ○渡辺佳男 ○五十嵐義和
○河合敏一 ○宮前貴司

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2650

2012.10.16 No. 2254



TAKEFU WEEKLY



Rotary Club of Takefu

Bridge the Gaps

2012-2013 第2650地区テーマ
隔たりをなくそう

創立/1954年(昭和29年)6月30日

事務局/〒915-8522 越前市塚町101 武生商工会館内

TEL.0778-23-5210・FAX.0778-22-2333 E-mail:takefurc@es.ttn.ne.jp

例会日/毎週火曜日 例会場/武生商工会館

会長/佐々木忠彦 幹事/河嶋一 会報委員長/丹羽新吾

第2839回 例会記録 平成24年10月9日(火)

会員総数61名(内出席免除会員8名) 本日出席会員38名

マークアップ(前々回) 6名

出席率(前々回補正) 78.18%

ロータリーソング「我等の生業」

ゲスト 福井県安全環境部自然環境課

課長 野坂雄二氏 獣医師 木村美貴氏

会長挨拶 佐々木会長



昨日は、十二節気の一つ「寒露」でした。露が冷気によって凍りそうになること。雁などの冬鳥が渡ってきて、菊が咲き始めコオロギが泣きやむころです。露が冷たい空気と接し霜に代わる直前で、紅葉が濃くなり、燕などの夏鳥と雁などの冬鳥が交代する時期でもあります。この頃は、大気の状態が安定して空気が澄んだ秋晴れの日が多くなります。夜には月も美しく輝いて見えます。今晩あたり空を見上げてみてはいかがでしょうか。これまでと違った、秋の清々しさと趣を感じる空に出会えるはずです。

先週の朝日新聞の天声人語より紹介させていただきます。皇居わきの原っぱに東京駅ができたのは1914(大正3)年12月です。丸の内の駅舎は赤れんがの3階建てで、「帝都の表玄関」を意識し、南北に300メートルを超す威容となりました。戦災で失われた二つのドーム屋根や3階部分が、5年をかけて創建時の姿に復元され、10月1日に全面開業グランドオープンしました。

屋根材には、大津波をくぐった宮城県産の天然スレートが使われました。美しさでも世界屈指の鉄道駅でしょう。高層化しないことで生じる「空中権」を取り新築ビルに譲り、約500億円の工費を賄ったと聞きます。賢い投資です。

建築物の復元は、そこにまつわる無数の、そして無名の記憶を守ることでもあります。人は記憶の辺にたたずんで、熱いまま捨てられた思いや、碎けた夢のかけらを拾います。東京スカイツリーといい、上京する楽しみが又一つ増えましたね。

先週土曜日の10月6日に県下ロータリークラブ第一回合同会長幹事会がユアーズホテルにて開催されました。各クラブの今年度事業の予定及び終わった事業の発表がありました。主な事業を紹介します。沢山のクラブが高校の模擬面接をやっています。5クラブ以上になるでしょう。当クラブは参加しませんでしたが、9月9日の日曜日に県下一斉の奉仕活動のセイダカアワダチソウの駆除にはほとんどのクラブが参加したみたいでした。又、武生府中クラブさんは来年の4月6日にオリンピック金メダリストの高橋尚子さんを招いて、丹南の中高校生を対象にランニングのレッスンを鯖江市東公園陸上競技場で行うそうです。興味のある方は孫さんにでも是非参加を進めてみたらいかがでしょうか。フリートークリングや写真撮影タイムもあるそうです。当然参加は無料です。

吉田実さんという人事コンサルの専門家が言っている「上司が部下に言ってはいけない10のセリフ」をご紹介します。

- ・オレがやるからいいよ
- ・お前はだからダメなんだ
- ・言われたことだけをやっていればいいんだ
- ・ウチはそういう会社だから
- ・結果を出してから言え
- ・もっと会社の事を考えろ
- ・なぜそんなことも出来ないんだ?
- ・やる気あるの?
- ・言い訳するな
- ・勝手なことをするな

今日の一言:2012年度目標

「志をもって生きる」柳井正